

や。大丈夫やけんね」と言いました。その時のおばあちゃんは少し怒ったように私には見えませんでした。それでも私は「こけてケガをしたら大変なので」と言いおばあちゃんも「そうかい、ありがとう」を言ってくれました。自分でもこんなに勇気があったんだ、と思うほどこの時の私はなぜかとても夢中でした。おばあちゃんを支えながら下りた坂道はとても短かったです。ほんの少しの距離だったので私はおばあちゃんと会話ができませんでした。全部下りてしまっただけから私はどう話しかけたらいいのだろうと迷っているとおばあちゃんの方から「本当にありがとうね」と言われ、私は「はい」としか言えませんでした。

家に帰ってから私はおばあちゃんはず、最初にことわったのか、少し怒っていたのはなぜだろうと考えていました。私は、おばあちゃんは私に迷惑がかかるから最初にことわったのだと思います。でも、怒っていたように見えた理由がわかりませんでした。この話をお母さんしてみると、「それは、自分でできることは自分一人でやりたかったんじゃない」と言っていました。お母さんはお年寄りに関わる仕事をしています。年をとったらできなくなる事が多くなるから、今できることは自分でしたいと言っているお年寄りが多いと言っていました。それを聞き、やっと答えがわかりました。おばあちゃんを助けたつもりだったけれど、おばあちゃんの仕事を奪ったのだと思い少し落ち込みました。

次の日の学校の帰り道、そのおばあちゃんが畑で作業していました。大きな声で「こんにちは」と言うと「お帰り、きのうは助かった。ありがとう」

とう」と言ってくれました。その時、今まであった私の心の中のモヤモヤした気持ちが飛んでいきました。やっぱり勇気を出して声をかけて、ことわられたけどやめなくて良かったと思えました。おばあちゃんを助けることができてよかったな、という気持ちと私が今まで知らなかった気持ちを、この親切を通じて知ることができてよかったです。相手の気持ちを知ることができ、これからの私にプラスになったと思います。これからも、勇気を出して行動も、色々なことを知っていきたいです。

親切は相手を助け、自分をみがいて行くことにつながるすばらしいとりくみだと改めて思いました。このおばあちゃんに出会って、本当の親切がわかったような気がしました。

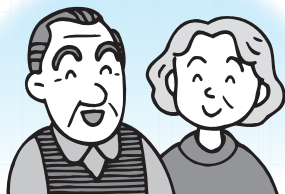
大分県本部長賞

「あいさつをとおして」

国東小学校6年 堤 みどり



私は、一学期にあいさつ運動をするようになった時、正直、最初は「めんどくさいなあ」とか「なんで朝早く起きてまで、あいさつしないといけないの」とか「あいさ



つ運動とか意味ないじゃん」とか思って、あいさつをしていました。しかも、こっちがあいさつしても、にげたり「うるさいなあ」とか言われることもありました。だから、ほんとにあいさつ運動しても本当に意味あるかなあ、と思ってました。だけど、よく考えてみたら、こっちのあいさつのしかたがいけなかったのかなあ、と思うようになりしました。だから、こっちから、今までみたいなあいさつじゃなくて、もっと気持ちのいいあいさつを心がけて、あいさつしてみると、あいさつをかえしてくれるようになりました。すごく、いきもちになりました。

私は、一学期にあいさつ運動を通して、あいさつを少し意識するようになりました。あいさつをしても、かえしてくれなかったときは、やっぱりいい気持ちではないし、だけどあいさつをかえしてくれたら、自然に笑顔になります。私はあいさつ運動をしているんなことを学びました。たとえば、あいさつをするときは、人の目を見て言うこととか、きもちのよいあいさつのしかたとか、あいさつをするときの姿勢とか、たくさんのことを学びました。

あいさつ運動が終わっても、登校中や下校中に、人に会ったら自然にあいさつができるし、今は、私達の登校中、下校中の様子をみていてくれる人もいます。その人達にあいさつをします。あいさつ以外に「いってきます」とか「ただいま」とかとも言えるようになりました。私は、「あいさつ」は人と人がふれあえるための言葉なのかなあ、と思います。だから、これからも、あいさつをしていきます。